

ITヘルスケア学会第2回年次学術大会開催に寄せて

ITヘルスケア学会  
会長 三友 仁志



ITヘルスケア学会は、第2回(2008年度)年次学術大会を専修大学神田キャンパスにて開催するはこびとなりました。本大会は、主として会員相互の学術的な研究発表交流を目的とし、知的な刺激を通じて、学術的・社会的貢献をもたらそうとするものです。

学術発表交流は学会の存在意義の根幹を成すものといえ、初回である昨年度の大会の成功は、本学会の将来の発展の礎となりました。2年目を迎えた今年度の学術大会の成否は、今後の学会の発展を左右するものといえます。さいわい、会員諸賢の積極的なご協力を得て、多くのご応募をいただき、実行委員会による選考の結果、プログラムのとおり17件のご発表をいただくことになりました。発表の内容も学会の性格を反映して、多岐にわたっています。各発表には予定討論者が1名ずつ割り当てられ、充実した議論が展開されます。

特別講演には、板生 清 先生(東京大学名誉教授、東京理科大学教授、NPO 法人ウェアラブル環境情報ネット推進機構理事長)をお招きし、お話を伺う機会を得ることができました。先生におかれましては、まことにご多忙でいらっしゃるにもかかわらず、快くご講演をお引き受けくださいました。心より感謝の意を表します。

本大会は、多くの方々のご支援とご協力に支えられて開催されます。専修大学様には、学会のために会場をご提供いただきました。学会理事神原理先生(専修大学教授)には本大会の実行委員長として、大会開催までの長い間、精力的に各種の調整および準備作業にあたっていただきました。さらには、企業からも多くの協賛をいただいております。お名前をすべてこの場であげさせていただくことはできませんが、本大会の実現に向けてさまざまな形でご支援をいただきました皆様、実行委員会の皆様およびスタッフ全員に、心からの感謝を表します。

本学会は、大学、研究機関、医療機関、企業、および医療・介護等にかかわる人びとが、情報通信技術の応用に関する成果を基軸に、多様な視点から発表、交流することにより、健康福祉の増進を通じて社会に貢献すること目的として、従来にない新しい枠組みを志向した学会です。今後ともITヘルスケア学会にご支援をたまわりますようお願い申し上げますとともに、活発な意見の交換や知識の共有を通じ、参加される皆様にとって、有意義な大会となることを祈念いたします。

2008年5月